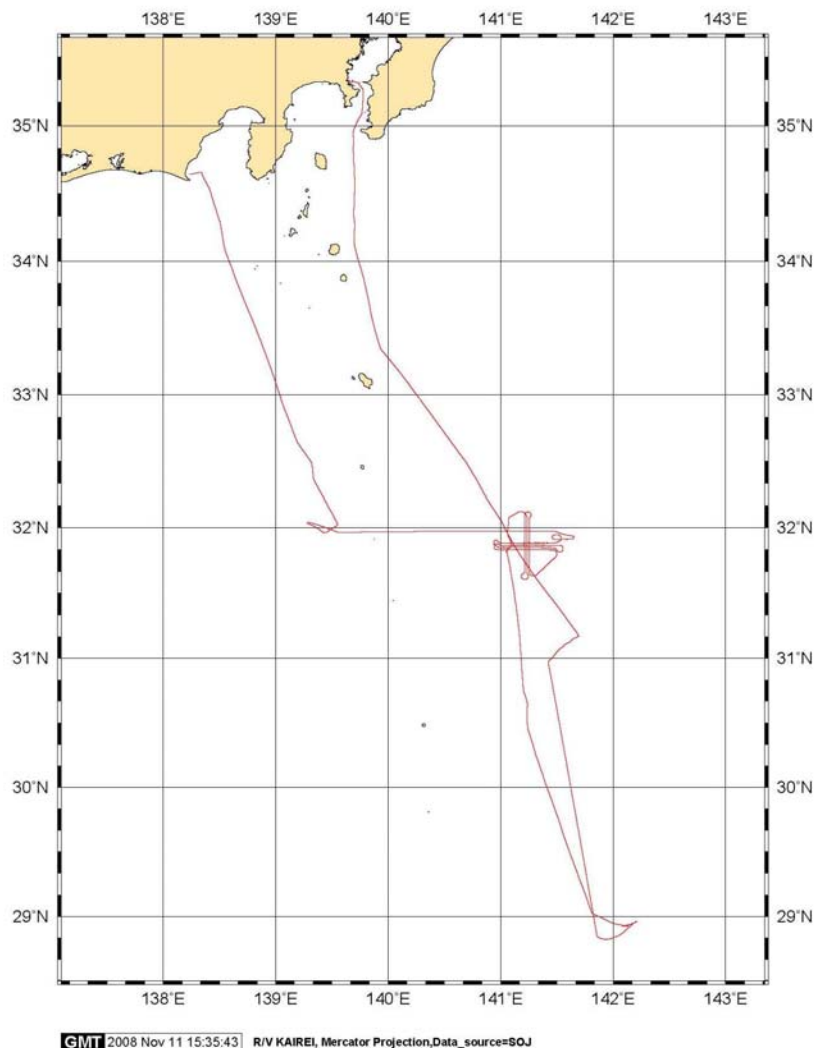


クルーズサマリー

1. 航海関連欄内容：

- (1) 航海番号・使用船舶：KR08-E03・「かいいい」
- (2) 航海名称（実施要領書名）：平成20年度「伊豆小笠原海域における地震探査調査研究」
- (3) 首席研究者・所属機関：山下 幹也・海洋研究開発機構
- (4) 課題代表研究者・所属機関：
 - 1) 金田義行・海洋研究開発機構、
- (5) 課題受付番号・研究課題名：
 - 1) 伊豆小笠原島弧の地殻進化過程解明 -IODP Project IBM 為の構造研究-
- (6) 航海期間・出港地～寄港地～帰港地：
平成20年11月2日～11月11日・御前崎港港外～海洋研究開発機構岸壁
- (7) 調査海域：伊豆小笠原海域
- (8) 船舶の航跡図：

KR08E03_Nav Track



2. 本文：

(1) 目的：

地球内部変動研究センターでは伊豆小笠原島弧の島弧地殻進化過程を解明するため、平成16年度より伊豆小笠原海域において重点的に調査を実施している。その結果、伊豆・小笠原島の現在の火山フロント下の島弧、海溝から島弧、背弧海盆にかけての島弧横断方向の地殻構造、および小笠原海嶺の地殻の特異性が明らかになり、島弧地殻形成・成長過程のシナリオを提案するに至っている。本調査では、青ヶ島南東の伊豆小笠原海域においてIODPプロポーザルの掘削候補点周辺部におけるサイトキャラクター化を把握することを目的とする。

(2) 実施項目：

1) 反射法地震探査

IBM2 海域（測線 EW3a, EW8, EW9, EW10, EW11, NS7, NS8, NS9）およびKT04 測線において大容量エアガンシステムアレー（総容量7,800 立方インチ）と受振器（ハイドロホン）の入った長さ約6000mの444チャンネルストリーマケーブルを同時に曳航し（深度8 m）を用いた反射法地震探査を行った。

2) 海底地形観測

測線上にてマルチビーム測深器を用いて海底地形データを取得した。

3) 音速補正のための水温・塩分濃度観測

海底地形調査の音速補正用に expendable-Bathy Thermograph (XBT)を2箇所を実施した。